

十



從四位勲四等今村有隣 敘勲

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十三年九月二十七日

内閣總理大臣子爵加藤高明



内閣

内閣文庫第六五



大正十三年九月二十七日



174

勳章第一八六號 文勳 六五 大正十三年九月四日

大正十三年九月四日 内閣總理大臣 賞勳局總裁

内閣總理大臣 賞勳局總裁

大正十三年九月四日 裁可濟

從四位勳四等今村有隣儀ハ明治三年大學小助教ニ任セラレ爾來文部少助教同中助教東京外國語學校教諭高等商業學校教授第一高等中學校教授第一高等學校校長等ニ歴任シ同三十九年九月退官更ニ第一高等學校講師ト爲リ同四十一年九月退職マテ三十有七年間佛語教師又ハ校長トシテ終始シ後學

賞勳局

ノ誘掖指導ヲ怠ラス同十五年佛語啓蒙ヲ著シ同三十二年對釋應用佛蘭西文法ヲ著シテ佛語學書ノ先驅ヲ爲シ後學ノ指導學習ニ資スル所頗ル大ナル等教育上ノ功績顯著ナル者ニ候處目下病氣危篤ニ陥リタル趣ニ付此際特ニ勳三等ニ敘シ瑞寶章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

元第一高等學校長從四位勳等今村 有隣  
敘勳三等授瑞寶章

右者明治三年大學少助教ニ任セラレ爾來文部  
少助教令中助教東京外國語學校教諭高等商  
業學校教授第一高等中學校教授第一高等學校  
長等ニ歷任シ明治三十九年九月退官更ニ全校  
講師トナリ令四十年九月退職迄三十有七年間  
佛語教師トシテ又校長トシテ終始シ其間專心育  
英ノ事ニ從ヒ後學ノ誘掖指導ヲ怠ラス殊ニ今人

文部省

ハ佛語學ノ先覺ニシテ明治十五年「佛語啓蒙」  
ヲ著シ又令三十二年「對釋應用佛蘭西文法」ヲ  
著セリ之レ實ニ明治佛語學書ノ先驅ニシテ其  
後同種ノ書世ニ出スルモノ多ク此書ニ基ケリ  
以テ後學ノ指導學習ニ資スル所頗ル大ナリ而シ  
テ今人ノ教ヲ受ケ現時佛學ヲ以テ世ニ立テルモノ  
甚多ク本邦佛學ノ現時ノ盛況ヲ見ルハ蓋シ今  
人ノ力與テ大ナリト謂フヘク教育上ノ功績洵ニ顯  
著ナリトス然ルニ今人ハ八十歳ノ高齡ニ達シ又客  
年來病ヲ得目下危篤ニ陥リ命且夕ニ迫レリ

希ク此際公人ノ功績ヲ録セラレ特ニ頭書ノ通  
リ勲等進叙ノ榮ヲ與ヘラレンコトヲ茲ニ謹テ奏ス

大正十三年九月四日

文部大臣岡田良平



文  
部  
省

族府 東京府 氏 弘化二年四月二十五日 名 姓

今村有隣

文久三年 不詳 横濱佛國公使館附書記官カミヨシ氏等ニ就キ六年間

佛學ヲ修ム

明治二年 不詳 箕作麟祥氏ニ就キ三年間佛學ヲ修ム

八月一日 大學南校ニ入り三ヶ月間佛學ヲ修ム

土月七日 任少得業生

同三年 二月二日 任中得業生

四月六日 任大得業生

五月三十一日 任大學少助教

同四年 八月三十一日 任文部少助教

九月三十日 免本官

同月三十一日 任文部少助教

十二月三十一日 任文部中助教

第一高等學校

明治五年 二月二十五日 造船寮八等出仕申付候事

十月十九日 主船寮八等出仕申付候事

同六年 一月八日 博覧會事務官申付候事

同月三十一日 博覧會三級事務官兼勸澳國ハ差遣候事

十月二十九日 免兼任博覧會三級事務官

同七年 二月二日 補文部省八等出仕

三月二日 任二等教諭

同八年 六月八日 東京外國語學校ニ等教諭ノ任ヲ囑シ一ヶ月

全七拾四交附候事

同九年 九月五日 東京外國語學校ニ等教諭ノ任ヲ囑シ一ヶ月

全九拾四交附候事

同十年 八月七日 東京外國語學校訓導ノ任ヲ囑シ一ヶ月全千

八拾四交附候事

同十三年 二月七日 一々年全千貳百四交附候事

同十四年 七月十日 任東京外國語學校教諭

太政官

同

同

同

同

同

文部省

同

同

正院

海軍省

工部省

同

同

同

文部省

同

同

同

大學

同月同日	年俸千貳百圓下賜候事	同
九月三日	叙正七位	同
五月三日	法學部佛語教導嘱託及候事	東京大学
同十七年 五月十六日	自今年俸千五百圓下賜候事	太政官
同十八年 九月十六日	任東京大学豫備門教諭兼東京外國語学校教諭	同
同月同日	年俸千五百圓下賜候事	同
十月十五日	免兼官	同
同月同日	兼任東京商業学校教諭	同
同十九年 三月三日	今般帝國大学令公布自今出勤不及候事	帝國大学
四月二十九日	豫備門改テ第一高等中學校トシ其官制ヲ公布セリ	
同月同日	任第一高等中學校教諭	内閣
同月同日	叙兼任官三等	同
同月同日	中級俸下賜	文部省
第一高等學校		
明治十九年 五月四日	兼任東京商業学校教諭	内閣
同月同日	叙兼任官三等	同
七月八日	叙從六位	同
八月十五日	兼任第一高等中學校幹事	同
同月同日	叙兼任官四等	同
同二十年 十月十八日	依強免兼第一高等中學校幹事	同
同二十三年 十月五日	官制改正	
同月十五日	任第一高等中學校教授兼高等商業学校教授	内閣
同月同日	叙兼任官三等	同
同月同日	中級俸下賜	文部省
同二十四年 五月二十九日	叙兼任官二等	内閣
同月同日	年俸千六百圓下賜	文部省
六月二十七日	叙勲六等授瑞寶章	賞勲局
八月十六日	高等官俸給付實施ニ依リ三級俸	

同二十五年	二月二十九日	叙正六位	宮内省
同二十六年	土月二十日	高等官官等俸給令實施ニ依リ高等官五等	
同二十六年	四月十二日	依職免兼官	内閣
同二十七年	九月十二日	第一高等中学校、第一高等學校ト改稱	
同二十七年	十月七日	陞叙高等官四等	内閣
同二十八年	三月十八日	二級俸下賜	文部省
同二十九年	六月三十日	叙勲五等授瑞寶章	賞勲局
同三十年	四月三十日	高等官官等俸給令改正ニ依リ四級俸	
同三十年	三月三十日	陞叙高等官三等	内閣
同三十一年	三月三十日	叙從五位	宮内省
同三十三年	五月七日	三級俸下賜	宮内省
同三十三年	七月五日	法訓西共知政府ヨリ贈典シタル「オフヒシエトダカレミ」	文部省
同三十三年	七月五日	記章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス	賞勲局
同三十五年	三月二十七日	叙勲四等授瑞寶章	内閣
同三十六年	一月十五日	陞叙高等官二等	内閣
第一高等學校			
明治三十六年	四月二十日	叙正五位	宮内省
同三十九年	七月五日	第一高等學校校長事務取扱ヲ命ス	文部省
同三十九年	九月五日	第一高等學校校長事務取扱ヲ免ス	内閣
同四十年	同月同日	任第一高等學校校長	内閣
同四十年	同月同日	叙高等官二等	内閣
同四十年	同月同日	賜一級俸	文部省
同四十年	同月同日	依職免本官	内閣
同四十年	十月四日	佛諾ノ授業ヲ囑託シ報酬トシテ一ケ年金六百	第一高等學校
同四十年		内給與	
同四十二年	土月十日	叙從四位	宮内省
同四十二年	九月十日	特旨ヲ以テ位一級破直	同宮内省
同四十二年	九月十日	解職	第一高等學校

文 部 省

一高四一號

今村有隣叙勲ノ件  
右 上奏書及進達候也

大正十三年九月四日

文部大臣岡田良平



内閣總理大臣子爵加藤高明殿

大正十三年九月四日

裏面白紙

年 月 日 文部大臣官房秘書課

病  
由

明治三十三年九月四日

秋勲ノ件  
及進達候也

九月四日

文部大臣岡田良平



子爵加藤高明殿

18/

年 月 日 文部大臣官房秘書課

病氣老篤

承亡セハ申直志を以テ

下正丁酉年九月四日

内閣事務局長加藤高明